



阿津賀志山防塁
調査・整備指導委員会
委員 中村 洋平さん

歴史まちづくり計画策定後、阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会の中で計画検討してきた歴史公園がようやくオープンを迎えることができました。想像以上に素晴らしくて嬉しく思います。千年以上も長く後世に伝え残していけるように大事に見守ってまいります。

ハスの花もこれから見頃を迎えるので、町内外を問わず多くの人が見に来てくれることを期待しています。

今日はライトアップで色とりどりのハスの花が咲いていました。カメラマンも多くいましたが、素晴らしい作品ができることでしょう。



「あつかし千年公園」名付け親
県北中3年
久保 大虎さん

岩手から国見へ引っ越してきて、道の駅国見でハスの花の写真を見ました。「これはどこの写真だろう」と気になっていて、調べると平泉の中尊寺から来たハスだとわかり、自分がいた岩手と繋がっていることに嬉しく思いました。

そしてタイミング良く、歴史公園の愛称募集を見たので、母と相談して、国見町が千年以上続いていることを知り、この名前を考えました。自分が選ばれたことが今でも信じられません。

小さな子どもからお年寄りまで、みんなが利用してもらえるような公園になってほしいです。

「あつかし千年公園」にかけてそれぞれの思い

これからもずっと、みなさんに愛される公園になってほしい



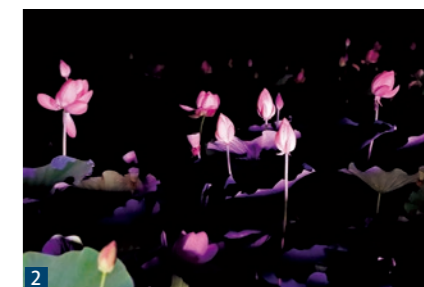
訪れた来園者らは幻想的に浮かび上がった「阿津賀志山防塁」と「中尊寺ハス」の姿に酔いしれていました

悠久の歴史に思いを馳せ、いざ激戦の地へ

あつかし千年公園オープン

鎌倉時代、東北地方をひとつに治め、この世の栄華を極めた奥州藤原氏。藤原三代秀衡が、朝敵となった源義経をかくまったことが藤原氏討伐の引き金となりました。鎌倉軍と藤原軍が激戦を繰り広げ、幾多の兵が命を燃やしたこの地に、「あつかし千年公園」がオープンしました。

1_点灯式ではライトアップのスイッチが押され、花火も打ちあげられました
2_色とりどりのライトアップにより幻想的な雰囲気となったハス池



7月10日、日が沈むとあたりが静寂に包まれました。先程までの雨もあがり、涼しげな風が公園を吹き抜けて行きます。

阿津賀志山防塁下二重堀地区に歴史公園「あつかし千年公園」がついにオープンを迎えました。

阿津賀志山の裾野に広がる国指定史跡の「阿津賀志山防塁」と、800年の眠りから覚めた「中尊寺ハス」がライトアップされ、暗闇に美しく浮かび上がりました。

「あつかし千年公園」は、先に整備した国見町文化財センター「あつかし歴史館」、道の駅国見「あつかしの郷」と連携し、周遊観光のベースとなる施設のひとつです。

オープン当日は、「一般社団法人二重堀サポートネットワーク」理事の氏家博昭さん、「あつかし千年公園」の名付け親の久保大虎さんも来園。幻想的な雰囲気となったかつての激戦の地で、オープンの様子を静かに見届けました。

ライトアップには多くの来園者が訪れ、阿津賀志山防塁の壮大なスケールを肌で感じ、大輪の花を咲かせる「中尊寺ハス」を眺めながら、遙か昔の歴史舞台へ思いを馳せていました。

翌日の11日から、「くにみ蓮まつり2021」が8月15日まで開催中。公園内に史跡やハスの案内ガイドが配置され、地元産品の販売等を行う「蓮ミニマルシェ」、蓮育成体験なども行われています。

